

瑞医

世界に羽ばたくMEDIPORT
2023.6. VOL.50

contents

極 社会貢献
Social contribution

人 時の人
People in the news

技 研究
Current topics in research

和 お知らせ
Information

みどり市民病院・みらい光生病院が 医学部附属病院として開院しました

2023年4月に、名古屋市立緑市民病院・名古屋市厚生院附属病院が名古屋市立大学医学部の附属病院となり、「みどり市民病院」「みらい光生病院」に生まれ変わりました。

これにより、名古屋市立大学病院・名古屋市立大学医学部附属東部医療センター・名古屋市立大学医学部附属西部医療センターとあわせて、附属病院群で約2,200床の病床数となり、5つの病院からなる附属病院群として、各病院が特長を生かしながら、高度急性期から慢性期まで幅広い医療を提供してまいります。

《名古屋市立大学医学部附属みどり市民病院》

地域密着型の大学病院として、地域医療のニーズに的確に対応した安全で高度な医療を提供します。これまでの緑市民病院の医療や健診事業を継承しつつ、救急の初期対応の充実や多様な疾患に対する治療を行います。さらに、予防医療など地域住民の健康づくりを支援し、健康社会の実現に貢献してまいります。

また、附属病院群として初となるAIを用いた内視鏡機器や整形外科手術支援ロボットの導入を予定しており、高度専門医療の強化も図ってまいります。



みどり市民病院 外観

《名古屋市立大学医学部附属みらい光生病院》

健康寿命の延伸に向けて、心身機能の回復・維持を目指した医療を提供します。様々な疾患に対して、関連する診療科が連携して横断的に診療を行う体制を整え、認知症やフレイルへの対応のほか、先駆的な技術を駆使したリハビリテーションを実施し、入院時から在宅生活を視野に入れた治療の提供と退院支援等、質の高い医療を提供してまいります。

また、附属病院化を機に、予約制の専門外来を開始し、回復期リハビリテーション病棟を開設します。



みらい光生病院 外観

文責：統括企画室

“瑞医の由来”

「瑞医(ずいい)」という言葉は、瑞穂で育った医師が心の支えとなる名市大、「瑞」にはめでたいことという意味があるので新しい門出の広報誌にと考えました。新しく発足した同窓会と一体となって歩むことを目的に、その名前「瑞友会」と相呼応しています。サブタイトルの「MEDIPORT」は、「Medical」と「Port(港・空港)」をかけた造語。名市大を最新情報を発信する拠点とし、卒業生が社会・世界へ出発し、またいつでも戻ってこられる港であるようにとの願いをこめています。

みどり市民病院

◆理念

地域の健康未来を創造する大学病院として、安全で高度な医療の提供とともに地域医療の持続的発展に貢献する医療人を育成します

◆基本方針

1. 急性期医療及び回復期医療をワンストップで提供し、「治し支える治療」を実践します
2. 安全で高度かつ先進的な医療の創出とともに、地域医療のニーズに的確・迅速に応えます
3. 地域包括ケアシステムの深化・発展に寄与し、地域との調和及び共生を目指します
4. 「地域を診る心」と「常に学ぶ心」を大切にする誠実で優れた医療人を育成します
5. 先制的かつ集学的な予防医学研究の推進により健康社会の実現に貢献します

◆病院長ご挨拶



病院長 浅野 貴樹

MIDORI reborn -みどりの心で-

2023年4月より市立緑市民病院は名古屋市立大学医学部附属みどり市民病院として新たな医療チームのもと再生いたしました。

緑区・名古屋南部の地域密着型大学病院として市立病院時代の標準的な医療を深化・重層化し急性期から回復期医療までの「治し支える医療」をワンストップで実践いたします。AI診断内視鏡やロボット支援整形外科手術など安全かつ高度先進的医療の提供、感染症・総合内科新設による新興感染症等への対応に加え地域連携パスなどを核に地域医療機関との協働推進で地域包括ケアシステムの発展に寄与させていただきます。建替えの検討を始めた新病院では、緑区中心に加速増大する高齢化や災害リスクに対し行政とも協力しながら自律的に地域医療を持続支持できる機能規模を計画しております。名市大病院群とのシームレスな診療連携を基に患者さんの幸せを探索する『みどりの心』で地域医療の持続的な発展と幸せな健康未来の創出に貢献してまいります。

みらい光生病院

◆理念

「健康寿命日本一の名古屋」を目指す医療を地域と連携して提供するとともに、百寿社会に資する先端研究を行い、優れた医療人を育成します

◆基本方針

1. 横断的な診療を担うセンター機能の提供による先駆的な医療を提供します
2. 自立・自活や生活の質(QOL)の向上に向けて、心身機能回復・維持を目指した医療を提供します
3. 地域包括ケアの拠点として臨床・イノベーションを推進します
4. 高い専門性と倫理観を持ち、医療・介護を支える優れた人材を育成します
5. 健康長寿に資する臨床研究とデータサイエンスに取り組みます

◆病院長ご挨拶



病院長 妹尾 恭司

病院長を拝命致しました妹尾恭司でございます。当院は、2023年4月1日より名古屋市厚生院附属病院から「名古屋市立大学医学部附属みらい光生病院」として、新たな診療体制で専門外来を構えて各科が連携し、ワンストップで診療を行うセンター方式により「脳神経・内臓機能・運動機能・感覚器機能・やせと肥満の代謝機能」の回復・ケアを進めていきます。そして、そこから必要なりハビリへと繋いでいき、アンチエイジングにも取り組んで参ります。当院の理念の中にあります「健康寿命日本一の名古屋」を目指す医療を地域と連携して提供していきたいと存じます。皆様から信頼され愛される病院となりますよう職員一同、一丸となって精進して参りますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

トルコ地震に際し、国際緊急援助隊医療チームのメンバーとして支援して参りました

国際緊急援助隊医療チーム(JDRT)は、故緒方貞子理事長の元で発展してきた日本で唯一の政府組織の医療チームです。外務大臣の命で派遣され、医師、看護師、薬剤師、調整員等から構成されています。世界保健機構(WHO)から高いレベルの認証を得ており、入院可能な急性期医療(産科含む)に対応し、透析も可能で、手術室2つ、入院ベッド20床を有しています。今回、私はこのJDRTのメンバーとして、トルコにて災害支援をして参りました。

派遣要請を受け、直ちに大学の関係各所に相談、承諾を得て、当直明け2月23日に東京へ移動。国内各地から集合したメンバーと合流し、結団式。翌24日のフライトでトルコのイスタンブールへ飛びました。国内線乗り継ぎ、25日に活動拠点の都市、ガジアンテプに到着。被害の甚大さを目の当たりにしながらバスで移動し、オウゼリ国立病院仮設診療所に隣接した現地に到着、診療サイトを設営しました。計12日間活動し、1日に約100名の傷病者を診察、手術も行いました。医療チーム全体(1~3次隊:計180名)では、約1ヶ月の活動中に約2000名を診察しました。これまでも国内外各地の医療支援に行かせていただきましたが、今回の経験も糧に、今後も災害医療に貢献していけたらと思っております。

御協力いただいた名市大病院職員全ての方々へ心より感謝致します。

トルコ共和国の早期の復興を心より願っております!

文責：救急科 山岸 庸太 講師



あなたにもできる救命処置 in 名古屋市科学館

3月25日(土)名古屋市科学館生命館地下2階のサイエンスホールにおいて、東部医療センター救急科の松嶋麻子教授に“あなたにもできる 救命処置”と題し、目の前で人が倒れた時の初期対応(Basic Life Support: BLS)のご講演を行っていただきました。その後、名古屋市立大学 東部医療センター救急科 三浦 敏靖准教授、救急救命士 小宮幸之介氏に加え、救急救命サークル MeLSCの皆さんにインストラクターとして参画いただき、小グループでのBLS講習を行いました。

MeLSCは松嶋先生とともに、毎年夏休みに学内の事務職員や部活動の学生を対象にBLS講習会を行い、日々救急医学を学ぶ学生サークルです。また名古屋市立大学と名古屋市科学館とは平成28年に「サイエンスパートナーシップ」を締結し、高校生向けイベントを定期的で開催していますが、小学生を含めた一般向けの講演、また実技を交えたBLSの試みは初めての事です。

地域での救急現場では、救急車が到着するまでの初期対応が重要で、超高齢社会では、子どもを含めて誰もがBLSを抵抗なく行える事が重要になります。

今回、ご家族連れも多く、実習開始当初、子どもさん達は消極的な場面もありましたが、実習後半になると、MeLSCの学生さんを中心に各グループが一丸となって取り組んでいた姿が印象的でした(写真)。

AEDは一般の方が触れる機会は少なく、見るとやるとでは大違いとの意見も聞かれ、MeLSCの学生さん達も一般の方や小学生への指導は非常にプラスになった様でした。

今後、科学館とも協議し定期開催が出来ればとも考えています。

(参加人数内訳:大人25名/高校生2名/中学生1名/小学生15名の計43名)

文責：地域医療教育学 赤津 裕康 教授



退任教授紹介

医学研究科 神経生化学分野 道川 誠 名誉教授

2023年3月末をもちまして神経生化学分野教授を定年退職し、日本歯科大学新潟生命歯学部・高齢者医療学・教授として新たな挑戦を開始いたしました。

2012年から名古屋市立大学医学研究科神経生化学教授としてお世話になり、2017年から2021年まで同研究科長・医学部長、2022年から副学長を務めさせていただきました。この間、多くの皆さまのご支援、ご指導、お力添えを頂戴し、おかげ様で任期を全うできました。厚くお礼を申し上げます。

アルツハイマー病分子病態解明研究を推進する中で、口腔疾患(歯周病、歯牙欠損、咀嚼機能障害)とアルツハイマー病分子病態との関連についても研究をまいりましたが、この度日本歯科大学でさらに研究を進展させる機会をいただきました。これまでの研究成果を基盤に、新潟の地で「歯科と認知症」の研究分野において我が国の研究を牽引していきたいと思っております。

名古屋市立大学医学研究科の益々のご発展を祈念しております。



道川 誠 名誉教授

新任教授紹介

名市大病院 リハビリテーション医学 岡本 秀貴 教授

2023年5月1日付でリハビリテーション医学分野教授を拝命いたしました岡本秀貴です。謹んでご挨拶申し上げます。

私は1994年に名古屋市立大学医学部を卒業し、整形外科に入局後は関連病院で整形外科および手外科医として地域医療に従事してまいりました。2001年に名古屋市更生相談所に赴任してリハビリテーション医学と出会い、2003年に帰局してからは名古屋市立大病院で整形外科およびリハビリテーション医療に携わってまいりました。研究は爪再生、末梢神経再生、穿通枝皮弁などの基礎研究や手指外傷術後の持続末梢神経ブロックを用いたリハビリテーション、手指内軟骨腫鏡視下搔爬術など臨床研究を行ってまいりました。

2023年4月からはみらい光生病院、みどり市民病院が大学病院化され、リハビリテーション医学分野の果たす役割は重大であると感じております。今後も名古屋市立大学の発展のために植木美乃主任教授とともに教育・臨床・研究に注力していく所存です。皆様のご指導を賜りますよう宜しくお願い致します。



岡本 秀貴 教授

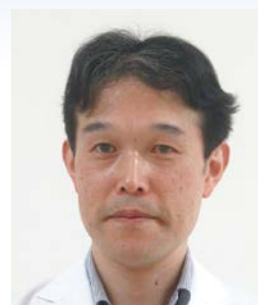
新任教授紹介

東部医療センター 精神・認知・行動医学分野 音羽 健司 教授

この度2023年4月1日付けで名古屋市立大学医学部附属東部医療センター精神科に着任しました音羽健司(おとわたいし)と申します。謹んでご挨拶申し上げます。

1998年に東京大学を卒業後、東京大学医学部附属病院、NTT関東病院、昭和大学附属烏山病院などで勤務しました。臨床では、パニック症をはじめとした不安症やうつ病、併存する発達障害の臨床に携わりました。研究では、2010年から2年間米国バージニアコモンウェルス大学精神行動遺伝医学研究所にて双生児研究や精神科遺伝研究を行いました。その後も大学病院や臨床心理学大学院での教育・指導を続けてきました。

東部医療センターでは精神科としてコンサルテーション・リエゾンを中心に認知症ケア、緩和ケアに関わり、名古屋市立大学から発信できる独自の研究や後進の育成・教育に力を注ぎたいと存じます。皆様方のご指導ご鞭撻を賜りますようどうぞよろしくお願い申し上げます。



音羽 健司 教授

02 時の人 People in the news

新任教授紹介

東部医療センター 臨床薬剤学分野 近藤 勝弘 教授

2023年4月1日付で臨床薬剤学分野(東部医療センター)教授を拝命致しました、近藤 勝弘(こんどう まさひろ)でございます。謹んでご挨拶申し上げます。

私は薬剤師として名古屋市立大学病院で長年勤務し、がん領域を中心に臨床、研究を行って参りました。臨床では、腫瘍内科医とのチーム医療のもと、がん薬物療法の難治療例に関するコンサルトに対応するとともに、薬剤師外来の開設に携わりました。また、がん薬物療法の副作用発現に係るリスク因子の探索や支持療法の最適化をテーマに臨床研究を行っております。

現代の薬剤師には「薬を量る／包む」ではなく、患者さんやご家族等に直接関わり、多職種チームの中で建設的な提案を積極的に行い治療の質を向上させることが求められます。私は、このような薬剤師の臨床業務の推進によって治療の進歩と次世代の医療人の育成に尽力し、病院・大学の発展に貢献して参りたいと考えております。皆様方のご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。



近藤 勝弘 教授

新任教授紹介

みどり市民病院 循環器内科学分野 佐伯 知昭 教授

この度、2023年4月1日付けのみどり市民病院循環器内科学分野教授を拝命致しました佐伯知昭と申します。謹んでご挨拶を申し上げます。

現在当院の立ち上げに日々奮闘しています。私たちに与えられた時間と医療資源はきわめて限られています。だからこそ、私たちは知恵と技術と体力を結集し、小さくても常にお互いの幸せを探索し尊重する「みどりの心」で職員一丸となり、この生みの激痛を乗り越え、必ずや地域の健康未来を創造する大学病院を創出して参りたいと存じます。

私たちの合い言葉は「～幸せな健康未来、あなたへ～」です。私たちは大学病院として、安全で高度な医療の提供と「地域を診る心」と「常に学ぶ心」を大切にする誠実で優れた医療人の育成を通して、地域医療の持続的発展に貢献して参ります。大学病院になって皆が幸せになれる、健康社会の実現を目指します。これからもどうかご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



佐伯 知昭 教授

新任教授紹介

みどり市民病院 麻酔科学・集中治療医学 藤田 義人 教授

この度、2023年4月1日付けのみどり市民病院麻酔科学・集中治療医学教授を拝命いたしました、藤田 義人と申します。謹んでご挨拶申し上げます。

私は1989年に名市大医学部を卒業し2014年に愛知医科大学に赴任となるまで麻酔業務に加え、救急部立ち上げの5年間を救急医療、集中治療部副部長としてRRS立ち上げなど行いました。異動後は22床のgeneral ICUと19室手術室での麻酔業務を中心に、麻酔・集中治療の臨床、教育、研究を行い主任教授を拝命、務めたのち2023年4月よりご縁あってこちらに赴任させていただくこととなりました。

前任地では、麻酔科医師のタスクシフトを様々なコメディカルスタッフ、多職種での連携・協力で麻酔、GICU運営を実践しました。お陰様で診療看護師を主体のRRSが有効活動の指標であるRRS 25コール/1,000入院をクリアしました。全国で3病院しかクリアできていません。これらの経験を新しいみどり市民病院で活かし、皆さんと誇りを持って働けたらと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。



藤田 義人 教授

新任教授紹介

みどり市民病院 腎・泌尿器学分野 河合 憲康 教授

令和5年4月1日付けで名古屋市立大学医学部附属みどり市民病院 泌尿器科教授を拝命いたしました河合憲康(かわい のりやす)でございます。謹んでご挨拶申し上げます。みどり市民病院は大学病院化され、約2,200床を擁する名古屋市立大学医学部附属5病院群の一員として出発いたしました。

2045年まで人口そして高齢者人口割合も増加する緑区の特性に合わせ「地域に根ざす医療」と「大学病院の医療」を融合した病院を造り上げて参ります。泌尿器科で言えば「排尿自立支援」「低侵襲治療」を「大学病院」のレベルで実施し、その成果を世界に発信して参ります。

病院では「医療安全・研究担当」の副病院長を拝命いたしました。寝食を忘れ立ち上げに奔走された事務の方々に感謝しつつ、病院を造り上げていく熱意と謙虚さを持って診療・研究・教育が充実した大学病院としての病院運営をして参ります。皆様のご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



河合 憲康 教授

新任教授紹介

みどり市民病院 消化器代謝内科学分野 内藤 格 教授

この度、2023年4月1日付けでみどり市民病院消化器・代謝内科学分野教授を拝命致しました内藤 格と申します。謹んでご挨拶申し上げます。

私は1997年に名古屋市立大学医学部を卒業後、第一内科に入局し、関連施設にて内科医・消化器内科医として研鑽を積みました。2007年に消化器・代謝内科学に帰局し、胆膵疾患を中心とした臨床・研究を行ってきました。また、内視鏡医療センターのセーフティマネージャーとして、医療安全活動にも取り組んで参りました。

この度、附属病院化したみどり市民病院は、地域密着型の大学病院として安心安全な先進的医療の提供や地域医療の持続的発展を使命としております。地域医療連携センター長も拝命致しましたので、地域連携活動を通して、地域から信頼され愛される大学病院を目指したいと考えております。

今後とも、皆様方のご指導ご鞭撻を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。



内藤 格 教授

新任教授紹介

みらい光生病院 神経内科学分野 岩瀬 環 教授

この度2023年4月1日付けで、みらい光生病院神経内科学分野の教授を拝命致しました。

私は1988年に名古屋市立大学医学部を卒業後、第二内科に入局、公立陶生病院で研鑽、大学院に進んで第二生理学・第二解剖学・分子医学研究所生体高分子部門・福祉村病院で海馬由来コリン作動性神経刺激ペプチド前駆体蛋白の遺伝子発現の制御を共同研究し、名古屋市厚生院赴任後の2001年に学位を取得した後、シカゴ大学神経内科に留学する機会をいただきました。2004年から厚生院で高齢者の診療の傍ら、先輩方が遺された剖検脳を活用すべく愛知医科大学や福祉村病院で神経病理を学び、国立長寿医療研究センターの先生とも意見交換して認知症疾患に関する発見をしました。

今後も高齢者の脳神経疾患・認知症疾患に真摯に取り組み、関連診療科と協力して患者さんが自分らしい生活を続けられるよう寄り添える診療・研究体制を築いてゆきます。医学部附属病院化で学位・留学・学会発表・論文が評価されるようになり、診療・研究・教育の機会をくださった皆様に深謝いたします。年齢に関わらず向上心を持続できる環境を作る所存です。ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



岩瀬 環 教授

02 時の人 People in the news

新任教授紹介

みらい光生病院 耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野 高橋 真理子 教授

2023年4月1日付でみらい光生病院耳鼻咽喉・頭頸部外科学教授を拝命いたしました高橋真理子です。謹んでご挨拶を申し上げます。

私は1992年に東邦大学医学部を卒業し、豊橋市民病院で初期研修後、1993年に名古屋市立大学耳鼻咽喉・頭頸部外科学教室に入局しました。関連病院で研鑽をつみ、2000年に大学帰局後は、耳科学、聴覚を専門とし、耳鳴、聴神経腫瘍、小児難聴、めまいの臨床、研究、教育を中心に行ってきました。

耳鼻咽喉科は、コミュニケーション(聴覚・音声言語)、生活機能(嚥下・平衡・顔面運動)、感覚(嗅覚・味覚)という健康長寿やQOLに大きく関与する領域を担っており、加齢や障害による機能低下だけでなく、機能維持や予防のためのリハビリテーションも重要となります。みらい光生病院の横断的な診療を担うセンター機能で各診療科や部門と連携し、耳鼻咽喉科領域のリハビリテーション診療のシステム構築を行い、地域の皆様に貢献できるように尽力して参りたいと存じます。ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



高橋 真理子 教授

新任教授紹介

みらい光生病院 整形外科学分野 若林 健二郎 教授

2023年4月1日付けで、みらい光生病院整形外科学分野の教授を拝命いたしました若林健二郎と申します。謹んでご挨拶申し上げます。

私は1993年に名古屋市立大学医学部を卒業し、同年整形外科に入局させていただきました。名古屋市立大学病院と関連病院で整形外科の研修を受けたのち、2002年に大学に帰局して以降は、小児整形外科と足の外科を中心に診療を行ってまいりました。

現在我が国は超高齢化社会で、人生100年時代とも言われており、健康寿命を延ばすことに多くの関心が寄せられています。みらい光生病院は「健康寿命日本一の名古屋」を目指す医療を提供し、超高齢化社会に対応できる医療人を育成することを基本理念としており、高齢者医療の重要性が取りざたされている現代に、みらい光生病院の立ち上げに参加させていただけたことはとても光栄に存じます。これからも皆様のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



若林 健二郎 教授

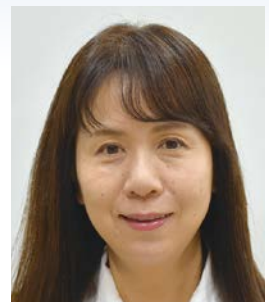
新任教授紹介

みらい光生病院 循環器内科学分野 山下 純世 教授

この度、みらい光生病院循環器内科学分野教授を拝命しました山下純世と申します。謹んでご挨拶申し上げます。

私は1994年に本学を卒業し、旧第2内科での臨床研修を経て名古屋市厚生院附属病院に赴任致しました。厚生院では、病理解剖で得られた左室壁厚データを根拠に、心電図上の左室肥大診断基準が高齢者においても適用可能であることを示し、初めての国際学会発表や論文投稿を経験させて頂きました。これが私の高血圧研究の源です。今、名古屋市立大学医学部附属病院として生まれ変わった『みらい光生病院』のスタッフの一員として新たな一歩を踏み出すこととなり、深い感慨を覚えると同時に責任の重さを痛感しております。

瀬尾由広主任教授のもとで、附属病院の名に恥じない安心・安全な医療の提供、地域医療への貢献、優れた人材の育成、健康寿命延伸に寄与する臨床研究に全力で取り組んで参ります。ご指導、ご鞭撻のほど何卒宜しくお願い申し上げます。



山下 純世 教授

紫外線殺菌の基本原則において従来の定説を覆す効果を世界で初めて発見 ～芸術工学研究科 松本教授と医学研究科 細菌学教室の共同研究～

コロナウイルスを含む様々な病原性ウイルスや細菌を殺菌する手法として紫外線殺菌が注目されています。この紫外線殺菌は、従来、照射線量(紫外線強度×時間)が同じであれば殺菌率は同じである、と考えられておりました。しかし、今回の研究において、今までの定説が成立しないことを実証しました。具体的には、照射線量が一定の条件下で、紫外線照射強度を大きく変えて細菌の殺菌率を精密に評価してみると、紫外線強度が弱くて長時間殺菌した場合のほうが、紫外線強度が強くて短時間殺菌した場合よりも、殺菌効率が1桁以上大きいことが判明しました。これら一連の実験結果を、数学の最先端手法である確率微分方程式を用いて解析することによって、新たな紫外線殺菌メカニズムの存在を定量的に明らかにすることに成功しました。今回の研究成果は、今後の紫外線を用いた居住空間および病室の紫外線殺菌技術および装置開発に大きく貢献できるものと考えております。

文責：芸術工学研究科 松本 貴裕 教授

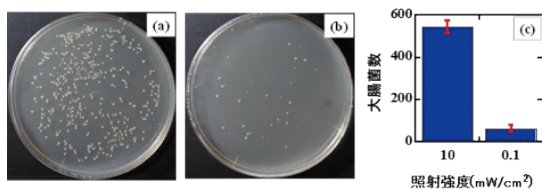
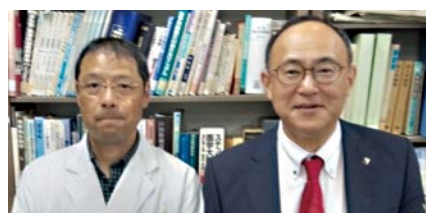


図 照射線量を10 mJ/cm²(照射波長は265 nm)で一定にした場合、大腸菌殺菌効果の紫外線強度依存性。(a)紫外線強度10 mW/cm²で1sの場合の大腸菌数(90%の殺菌率)、(b)紫外線強度0.1 mW/cm²で100 sの場合の大腸菌数(99%の殺菌率)。(c)は(a)と(b)のプレートで計測された大腸菌数を棒グラフにしたもので(a)は約550個、(b)は60個。紫外線殺菌する前の大腸菌数は約6000個。

大腸菌数(99%の殺菌率)。(c)は(a)と(b)のプレートで計測された大腸菌数を棒グラフにしたもので(a)は約550個、(b)は60個。紫外線殺菌する前の大腸菌数は約6000個。



細菌学分野 立野講師(左)、芸術工学研究科 松本教授(右)

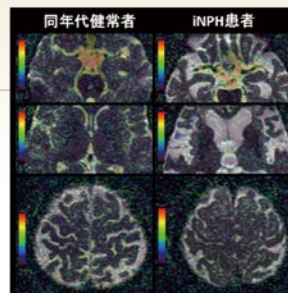
脳脊髄液の微細な動きをMRI撮像法IVIMで観測

脳脊髄液は、脳血液循環や呼吸に連動して拍動しながら脳の活動や脳内の老廃物を睡眠中に洗い流す役割が認知症と関連して注目されていますが、これまでの撮像法では、脳表に近い膜下腔内の脳脊髄液の動きは観察できませんでした。

しかし今回の研究で、従来は「がん」を栄養する新生血管の微細な血流や肝臓などの臓器の硬さを計測することを目的に撮影されるIVIM MRIを応用することで、微細な脳脊髄液の動きを比較的短時間で観測できることを発見しました。

今回発見した撮像法により、比較的簡便に脳脊髄液の動きを全脳の広範囲で観測することが可能となり、iNPHだけでなく、認知症などの脳脊髄液の動き、脳代謝が関連する脳疾患への応用にも期待が出来ます。さらに、脳血液循環・脳代謝と脳脊髄液の動きをコンピューターシミュレーションで3次元モデル化し、脳の老化や認知症、脳卒中などの病気のメカニズム解明を目指す我々の医工連携研究にも応用していく予定です。

文責：脳神経外科学 山田 茂樹 講師



【図の説明】

iNPH患者は同年代の健常者と比較して、f値(*)で表す脳脊髄液の微細な動きが広範囲で低下している。

*IVIM MRIにおける微小灌流成分を0～100%の数値で定量的に示す。

「国際ニューロン新生研究拠点」設置

この度、日本学術振興会の研究拠点形成事業(先端拠点形成型)に採択され、「国際ニューロン新生研究拠点」を名古屋市立大学に設置しました。本事業は、先端かつ国際的な研究課題について、我が国の研究機関が海外の拠点機関と協力して世界的水準の研究交流拠点を構築するとともに、次世代研究者を育成することを目的としています。メンバーと相談して、英語名称をNeurogenesis Research & Innovation Center (NeuRIC)としました。名古屋市立大学が世界をリードする脳内で新しいニューロンがつけられるしくみ(ニューロン新生)の研究について、スペイン、デンマーク、カナダ、アメリカ、日本などの主要な研究グループと連携し、当該分野の発展と若手研究者の育成のため、様々な活動を行います。この活動が、名古屋市立大学全体の国際化・研究力強化につながることを期待しています。ご協力をお願いいたします。

文責：脳神経科学研究所 神経発達・再生医学分野 澤本 和延 教授



理事長より、若き研修医たちへ熱いメッセージが送られました!

2023年4月7日(金)に、初期研修医オリエンテーションの特別企画が開催されました。大ホールにて現地参加した名市大病院研修医約40名の他に、東部・西部医療センターの研修医約30名がオンラインで参加しました。

第1部はジェネレーション・フォーラム「名市大の未来を語る」で、卒後15年目前後の名市大病院の先生方が、自らの歩んできた道を語りながら、研修医たちに進むべき道の決め方をアドバイスしました。

第2部は「レジェンド・フロンティアに聞く:医師のプロフェッショナリズムについて」で、郡健二郎理事長、浅井清文学長、高橋智医学研究科長、間瀬光人病院長から人生の岐路に立ったときの体験談が語られました。なごやかな中にも心に響く激励メッセージを頂き、研修医たちは輝かしい将来に向かって4月からの研修生活を歩み始めました。

文責：総合研修センター



【研修医へ激励メッセージを送る郡理事長】



【第1部「ジェネレーション・フォーラム」の様子】

卒業式を実施しました

2023年3月24日(金)に卒業式及び卒業証書・学位記授与式が行われました。卒業式は例年通り名古屋国際会議場センチュリーホールにて行われ、理事長・学長をはじめ、名古屋市長による祝辞を賜り、卒業生の門出を祝福いただきました。卒業式に引き続いて開催された卒業証書・学位記授与式は、桜山キャンパスさくら講堂にて行われました。卒業証書・学位記授与式は新型コロナウイルスの流行により開催を中止・縮小していたため、正式に開催するのは実に3年ぶりとなりました。卒業生たちは、慣れ親しんだ桜山キャンパスで卒業証書を授与され、6年間の思い出を懐かしむことができたのではないのでしょうか。卒業生の表情が晴れ晴れとしていたことがとても印象的でした。式典終了後には、久しぶりに再会する仲間との時間を楽しむ姿が見られ、卒業生にとっても思い出に残る機会になったと思います。大学での経験や得た仲間が、今後の人生の糧になることを願います。

文責：医療人育成課 医学教育係



令和5年度 医学部新生保護者説明会・施設見学会を開催しました

今年度の保護者説明会・施設見学会が4月5日(水)の入学式終了後、桜山キャンパスにて開催されました。保護者説明会では、本学のカリキュラムおよび学生指導について紹介し、保護者の皆様に本学の教育や名古屋市立大学病院について知っていただきました。その後の施設見学会では、臨床シミュレーションセンター、先端医療技術イノベーションセンター、情報処理実習室、顕微形態実習室等を4グループに分かれて訪れ、卒業後の研修・研鑽まで視野に入れた医学教育の概要に触れていただきました。新型コロナウイルス感染症流行が終息していないため、病院見学と学生有志の引率参加は今年度も叶いませんでしたが、保護者の皆様に、生命の尊厳に常に向き合う医師に育つまでの道のりや、本学が診療手技向上のための先端的な設備を備えていることを体感していただく機会になりました。

文責：環境労働衛生学 上島 通浩 教授



初期臨床研修プログラム修了式が行われました

2023年3月20日(月)に、令和3年度臨床研修プログラム修了式が行われました。研修医32名の研修修了が認められ、間瀬病院長による激励のメッセージとともに研修医へ修了証が授与されました。2年間の研修を終える先生方の顔には、無事に研修を修了できたことへの安堵とこれからへの期待が感じられました。

また、高い意欲を持って研修に取り組んできたと認められた研修医に対して、優秀研修医賞が授与されました。日々の研修はもちろん、後輩指導、全国の医学部生への広報活動等さまざまな面で名大病院の研修医として着実に歩んできたことを示す貴重な機会となりました。

この春から2年目の研修が始まる研修医たちも出席し、さらなる専門分野への道を進んでいく先輩たちの姿を見て、思いを新たに研修に励んでほしいと思います。

文責：総合研修センター



【間瀬病院長より修了証授与】



【令和3年度プログラム修了者と
間瀬病院長、林センター長、兼松副センター長】

看護学部と中央看護専門学校が統合しました

2023年4月から看護学部は名古屋市立中央看護専門学校と統合し、入学定員が80名から120名となりました。今春121名の新生を迎え入れ、東海3県の国立大学で最大規模の看護学部となりました。今後は、ICTを活用した学修環境の充実と教育研究指導の発展進化により一層充実した教育環境をめざします。また、教員体制の拡充により、教員1名に学生約8名という少人数教育を通じて人間形成にも重点を置き、卒業時には幅広い学識と研究心を兼ね備え、人を尊重し高い倫理観を持ち、人々の健康に貢献できる看護のプロフェッショナルを育成していきます。

統合を記念し、2023年4月6日に看護学部・中央看護専門学校統合記念交流会を開催しました。中央看護専門学校の在校生が卒業する2024年度までは、看護学部の学生と同じ校舎で学ぶこととなり、両校の教員・学生の交流・親睦を深めました。

文責：名市大 看護学部事務室



医師国家試験結果について

第117回医師国家試験が2023年2月4日(土)、5日(日)に実施されました。本学は、新卒者81名のうち、79名が合格、合格率97.5%という結果となり、全国82校の医学部・医科大学中で15位でした。医師国家試験は団体戦だと言われます。同級生同士が一丸となって勉強面、精神面で支え合いながら努力し続けた結果だと思えます。

令和4年度 医師国家試験結果

第117回 本学統計	受験者数	合格者数	合格率	(参考) 第116回
本学(新卒)	81	79	97.5%	99.0%
本学(既卒)	3	2	66.7%	0.0%
本学(全体)	84	81	96.4%	96.1%

〈参考〉

第116回 全国統計	受験者数	合格者数	合格率	(参考) 第116回
全国(新卒)	9,459	8,972	94.9%	95.0%
全国(全体)	10,293	9,432	91.6%	91.7%

文責：医療人育成課 医学教育係

04 お知らせ Information

看護職員のユニフォームが4月より変更になりました/市大病院

新病院移転後の2004年7月1日より18年間着用してきた看護ユニフォームが、2023年4月1日より新ユニフォームへ変更となりました。生地は、伸縮性や通気性に優れ、着心地が良く、色も選べるタイプになります。日勤帯は上衣が紺色、夜勤帯は上衣が白色(カラーラインはピンクとネイビーが選べます!)、パンツは白と紺の選択ができます。上衣のユニフォームの色で、他職種や患者さんからも日勤・夜勤の看護職員がわかりやすくなります。時間外勤務中の職員がわかりやすくなることで、仲間と協力して、その職員が早く帰れるよう協力し合える風土になることも期待しています。ワークとライフのバランスを取りながら、笑顔と健康で、イキイキと働き続けられる看護部を目指します。

文責：市大病院 看護部



胸腰椎移行部へのアプローチの教育資材/西部医療センター

2023年2月4日、大阪において第9回日本脊椎前方側方侵入手術学会が行われました。当院からは、‘胸腰椎移行部へのアプローチの教育資材’という演題名で発表させていただきました。学会より優秀論文賞をいただきましたので報告させていただきます。

発表の要旨は以下のような内容です。

近年、脊椎の手術において局所の除圧、固定はもとよりアライメントの矯正の重要性について注目されています。胸腰椎移行部の骨折や変形が脊椎全体のアライメントに大きく影響を及ぼすことも少なくありません。胸腰椎移行部の前方には胸腔と腹腔が位置し横隔膜によって境界されています。他の脊椎手術とは異なり胸腔からと腹腔からの2系統のアプローチを連結させることで十分な視野を得られますが、境界部の解剖学的位置関係が3次元的事であること、もともと整形外科ではなじみに少ない領域であるためイメージがとらえにくいのが現状です。そこで当院では胸腔と腹腔へのアプローチの際、眼前の組織、剥離する組織、切離の対象になる組織を模型で再現し、習得を目指す5名の医師に模型を使いながら講義をしています。その結果、5名に対し実践したところ温存、剥離もしくは切離する組織のオリエンテーションを5名とも3次元的に十分に理解することができました。

(模型の写真)

本手術方法でのポイントは

1. 最内肋間筋膜・肋骨骨膜と壁側胸膜の剥離
2. 横隔膜からの壁側胸膜の剥離
3. 横隔膜の切離
4. 横隔膜の再建

だと考えています。横隔膜と胸膜の扱いかたが大切になってきます。横隔膜の処置の方法については当院呼吸器外科・羽田医師に指導を受け、模型を作成しました。

横隔膜の解剖ですが、起始部は

腰椎部は1)内側脚 medial crus 右・左内側脚 2)外側脚 lateral crus
内側弓状靭帯は、外側弓状靭帯です。肋骨部は第7から12の肋軟骨内面、胸骨部は剣状突起後面に起始部をもちます。

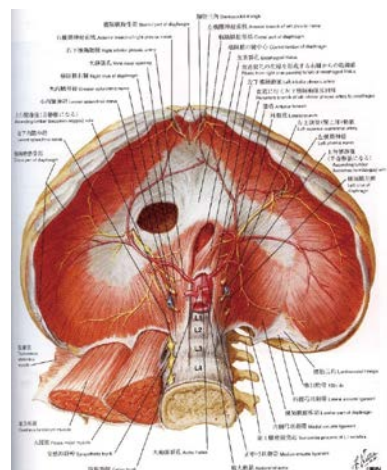
横隔膜の切離部については、腰椎部の左右の内側脚 medial crus 右・左内側脚については温存します。外側脚 lateral crusについては、内側弓状靭帯・外側弓状靭帯合流部の第1腰椎横突起付着部で切離します。

肋骨部は、肋軟骨内面から腱中心の間の横隔膜筋の筋層部を付着部から約2cmの部位にマークし、できるだけ再建します。

以上が今回、当院で作成した模型を使用した胸膜外腔アプローチです。

胸腰椎移行部へのアプローチは3次元にとらえにくいので模型を作成しました。温存、剥離もしくは切離する組織のオリエンテーション3次元的に十分に理解することができました。自作のモデルであるため、子供の工作のようになってしまいましたが今後は、再建する素材を検討しより明解なモデルにしていきたいと考えています。

文責：名古屋市立大学医学部附属西部医療センター 副院長・脊椎センター長 稲田 充



(ネッター解剖学図譜から引用)

病院整備が終了しました/東部医療センター

東部医療センターは、2012年より市民の診療ニーズに応えるべく大規模改修を行ってまいりましたが、このたび駐車場整備工事が完了し、10年を要した病院整備が終了しました。

これによって、当院の診療の方向性である①循環器(心臓・大動脈疾患)・脳血管疾患を中心とする救命救急医療 ②第二種感染症指定医療機関としての広範囲な感染症診療 ③高齢・合併症を有する患者のがん診療を高度なレベルで市民の皆様にご提供できる体制が整いました。2023年4月に開設した眼科・レーザー治療センターでは、従来の眼科診療に加え、網膜症・緑内障の専門医療に注力いたします。また今年度、精神科・臨床薬理学の教授を迎え、診療体制のさらなる拡大を図って参ります。

前進し続ける東部医療センターを広く発信するために、ホームページもリニューアルを行いました。
(<https://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/toubu/>)

今後も皆様にご迅速かつわかりやすい情報提供を行って参ります! 文責: 東部医療センター 経営課



みどり市民病院開院にあたり入院患者さんにお祝い膳を提供しました/みどり市民病院

みどり市民病院では、2023年4月の附属病院化を記念し、4月3日の夕食で入院患者さんにお祝い膳を提供しました。お食事をご紹介しますと、「お赤飯、ぶりの照焼き、長芋の白煮、ほうれん草のおひたし、すまし汁、さくらの練り切り」です。お祝いと春の季節を感じていただけるように工夫しました。また、患者さん一人ずつに浅野病院長のメッセージカードも添えて提供し、病院が生まれ変わったことを患者さんとともに共有しました。患者さんからは「美味しい!」「食事が楽しみになった」とのお声を頂戴し、名古屋市に生まれ変わったみどり市民病院の食事を受け入れていただけたことをうれしく感じています。これからも患者さんに寄り添う病院として、おいしい食事を安全に提供してまいります。

文責: みどり市民病院 診療技術科栄養管理係、経営課



内覧会を開催しました!/みらい光生病院

名古屋市立大学医学部附属みらい光生病院として2023年4月1日に開院し、同日に内覧会を開催しました。午前中は近隣の地域住民の皆様向けに、午後は医療機関の皆様向けにご案内し、200名超の方々にお越しいただきました。新規導入や改修を行ったフロアを中心に、1階の診察室エリア及びMRI室と3階のリハビリテーション科をご覧いただき、これまで地域の皆様と触れ合う機会があまりなかった旧厚生院附属病院が新しく地域に開かれた病院として生まれ変わったことを実感していただけたことと存じます。装着型サイボーグであるHALや、現段階では未承認医療機器ですが、愛知県で初導入となるBMI (Brain Machine Interface) などを使った先進的なリハビリテーション等、ご紹介の方への診療を行うとともに、3.0テスラのMRIの共同利用を行っておりますので、お近くにお越しの際はぜひお立ち寄りください。

文責: みらい光生病院 経営課



ひとこと☆メッセージ募集!

本誌では、皆様からの一言メッセージを募集します!ご無沙汰している同級生に、恩師に…ワイワイ楽しいお便りお待ちしております。ほっと和む「名市大人のつづきコーナー」をみなさんと作りたと思います。

例えば

研究者紹介に載った同期・先輩へ。「おまえも、がんばってるみたいやん。」
など、必要事項を記入の上、葉書かe-mailで下記までお送りください。(注:次回掲載は9月号です)

- 1.一言メッセージ(30字以内) 2.卒業年度 3.お名前(ふりがな) *匿名希望またはペンネームでの掲載をご希望の場合はその旨をお書きください。*4.住所 5.電話番号またはE-mailアドレス

《受付》〒467-8602 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地 名古屋市立大学 病院管理部
経営課経営係 広報担当宛 E-Mail: hpkouhou@sec.nagoya-cu.ac.jp

お送りいただいた個人情報については、お便りの採用に関する応募者への問い合わせ、確認以外の目的で使用いたしません

広報誌: 瑞医(ずいい)
発行: 〒467-8602
名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地
TEL (052) 858-7114 FAX (052) 851-4801

URL <https://www.nagoya-cu.ac.jp/>

※次号の発行は2023年9月下旬発行予定です。[年3回 1月・5月・9月]

☐
我こそは
通信員!

広報誌「瑞医」へ最新の話題をお届けして下さるサポーター大募集!「今、当講座ではこんな若手が頑張っています!」など広報委員会へ取り上げてほしい話題を教えてください。教職員・学生、身分は問いません。我こそは、という方は、E-Mail: hpkouhou@sec.nagoya-cu.ac.jp
病院管理部経営課経営係 広報担当まで